

2 新基本計画における政策評価（中間評価）の結果（政策評価シート）

(1) 政策評価シートの見方

I. 総括表の見方

政策評価シート【総括表】

政策のID 1-1 豊かな自然を守り、はくむ

基本方針 市民がうるおいとやすらぎを感じることができる自然共生社会を目指して、生物多様性の確保に配慮しながら、豊かな緑と水辺の保全・活用や、やすらぎとにぎわいのある海辺づくりを進めます。

政策の目的 環境 地域 経済産業

評価 **D** 政策の目的達成に向けあまり成果が現われていない

【評価の理由・説明】
 中間評価の結果を踏まえ、評価は、「自然の保全活動等の参加者数」であり、自然保全協定の締結や自然観察会などの取組みを策定に導いていることが要因と考えられる。
 一方、「市内の在りかたを豊かにする」は、森林ボランティア団体の高齢化が進み、H23末時点でも増えているものの目標値には到達しなかったほか、「市内の在りかたを豊かにする」は、市民生活で目にすることが多い緑に係る事業に重点が置かれており、指標の取組は「実効性」とは期待してはいるものの、また、「市内の海辺に魅力を感じる」は「1年前に、レジャーなどで市内の海辺を訪れたことがある」の海辺に関する指標は、市民生活の利便性は増えているものの、計画事業「緑の海辺公園の整備」が「千葉中央海浜地区まちづくり推進」などのハード整備の進捗状況が「実施設計」の段階であるため、特にあまり海辺を訪れたことのない市民の関心は低く、現状には達していないと考えられ、全体的に評価の向上につながらない。
【今後の取組みの方向性】
 「豊かな自然を守り、はくむ」ため、これまで、様々な取組みを実施してきたことにより、特に、やすらぎとにぎわいのある海辺づくりについては、これまで整備を進めてきた千葉中央海浜地区の散策道、遊歩道、ターミナル等の一部と緑の海辺公園見聞地区の民間事業者による活性化施設が平成27年度末に完成するなど、今後、これら施設を積極的に活用するとともに、海辺施設との連携、イベントの開催などを展開していくことにより、さらなる海辺の魅力向上を図っていく。また、多くの市民に海辺を訪れてもらうためには、これらの取組みを知ってもらうことが重要であるため、様々な機会を通じてPRを行っていく。
 自然の保全、緑などの保全・活用については、これまでの取組みを引き続き実施していくとともに、関連する成果指標の向上を目指すには、市民や事業者の理解・協力が不可欠であることから、各事業の魅力・意義などをイベントや広報等でPRするなど、活動の参加者・協力者を増やすための取組みを行う。

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
 A: 4.5以上、B: 3.0以上4.5未満、C: 1.5以上3.0未満、D: 0以上1.5未満、E: 0未満

生活実感・行動指標

指標名	指標値(単位)	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	H26年度実績	達成状況	評価
1 市内の在りかたを豊かにする		81.4	84.0	87.0	90.0	81.4	△	1
2 自然の水辺に魅力を感じる		46.1	48.0	49.0	50.0	46.7	△	1
3 市内の海辺に魅力を感じる		38.8	41.0	43.0	50.0	37.9	△	1
4 2021年間に、レジャーなどで市内の海辺を訪れたことがある		41.4	44.0	47.0	50.0	38.9	△	1

客観指標

指標名(単位)	H22年度実績	H23年度実績	H24年度実績	H25年度実績	H26年度実績	達成状況	評価
1 市民生活圏内の緑地の割合(%)	98.3	98.9	99.7	99.9	99.9	△	1
2 自然の保全活動等の参加者数(人)	408	440	470	500	510	◎	5
3 自然の保全活動参加者数(人)	111	120	130	140	150	△	1

比較 ①

平均点 ②

評価区分 ③

評価区分の理由・説明、今後の取組みの方向性 ④

平均点 1.0

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況	主な事業の進捗状況(事業をとりまく社会経済状況、成果・課題など)
1-1-1	20	12 自然保全協定の締結や里山の保全は、計画内割とおり進捗達成、自然環境の整備(都川水の里公園)は、計画どおり達成。
1-1-2	14	13 「緑の海辺公園の整備」の見聞地区における民間による活性化施設整備並びに千葉中央海浜地区の散策道・散策ターミナル等一環施設については、27年度末利用開始予定、海辺を訪れたことのない市民が一定数存在するが、レッドブルエアレーズの開催等により、本市海辺の認知度は高まっている。

<参考>
 指標を構成している事業についての情報を記載しています。

①各指標の達成状況・点数

生活実感・行動指標及び客観指標ごとに、H26 末目標値に対する H26 末現況値を比較し、達成状況を分類。以下のように分類ごとに配点を定め、点数化しています。

達成状況	説明	配点
◎	現状値が目標値以上	5
○	「現状値とH23 末現況値の差」が「目標値とH23 末現況値の差」に対し60%以上 (現状値は目標値未満)	3
△	「現状値とH23 末現況値の差」が「目標値とH23 末現況値の差」に対し60%未満 (現状値はH23 末現況値以上)	1
×	現状値がH23 末現況値未満	-1

②平均点

各指標の点数を合計し、平均点を算出します。

③評価区分

算出された平均点の値により、以下のように評価区分（5段階）を決定します。

区分	点数基準
A	平均点が4.5 点以上 (政策の目標達成に向け十分成果が現われている)
B	平均点が3.0 点以上4.5 点未満 (政策の目標達成に向けかなり成果が現われている)
C	平均点が1.5 点以上3.0 点未満 (政策の目標達成に向け順調に成果が現われている)
D	平均点が0 点以上1.5 点未満 (政策の目標達成に向けあまり成果が現われていない)
E	平均点が0 点未満 (政策の目標達成に向け成果が現われていない)

④評価区分の理由・説明、今後の取組みの方向性
 上記評価についての理由や、今後どのように指標向上を目指すべきかなどの方向性を記載しています。

II. 政策評価シートの見方 (個票)

政策評価シート【個票:生活実感・行動指標】

事業の種別: 1-2 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る 指標NO: 17

施策: 1-3-2 循環型社会の実現に向けた取組みの推進

指標名: 日頃、ごみの量を減らすことや、リサイクルに取り組んでいる 単位: %

調査期(区): 令和6

項目	H26 現況値	H27中期評価 (H26実績)	H28中期評価 (H27実績)	H29中期評価 (H28実績)	達成状況
目標値	—	84.0	77.5	80.0	△
現況値	83.7	83.3	—	—	①

注: 比較 (H27中期評価とH28中期評価の間) → ① (達成状況)

指標説明(区): ごみの量の減量と、定常かつ継続的なごみ処理体制の確立を目的とし、目標値を設定した。

【達成状況の分析】
 当該指標は目標値に近づき、「ごみ減量・リサイクル」の推進(特に教育・学習の推進)により、市民や事業者とごみの排出削減の取組みを推進し、事業進捗は概ね進捗した一方で、「ごみ減量・資源化の推進」の事業進捗は未達成だった。特に、「ごみ減量・資源化の推進」の取組のうち、ごみ処理施設等導入数値の取組みについて、補助金の引き上げを行い制度の拡充を行ったが、申請数が伸びなかったこともあり、目標の向上につながらなかったと考える。

【課題及び今後の取組みの方向性】
 目標未達成事業である、「ごみ減量・リサイクル」の推進(特に教育・学習の推進)及び「ごみ減量・資源化の推進」(特に家庭内ごみ処理機等導入促進)と「ごみ分別収集」(特に分別収集システム)について、積極的に広啓を行い、ごみの減量・資源化に努める。また、「ごみ減量・資源化」活動の積極的な取組を継続して行うとともに、分別収集の積極性により、参加促進の取組により、第2次実施計画事業の取組が社会全体に波及するよう、積極的な取組により、資源化を推進する。

指標を構成する事業

事業名	実施内容	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	達成	事業費(千円)
1 二六減量「もじゅーる」の推進	指導体制の強化	117店舗	117店舗	117店舗	117店舗	達成	4
2 二六減量「もじゅーる」の推進	商店街との協賛関係	—	10店舗	10店舗	10店舗	未達成	4
3 3R教育・学習の推進	小中学校に「もじゅーる」の設置	330人	330人	1,781人	1,781人	達成	4
4 3R教育・学習の推進	オンライン3R学習による市民への啓発	897名	2,071名	1,888名	1,888名	達成	3
5 二六減量・資源化の推進	資源化・分別収集の推進	994名	994名	1,284名	994名	未達成	3,677
6 二六減量・資源化の推進	生ごみ分別収集(4地区)	2,937名	2,937名	2,937名	2,937名	達成	—
7 二六減量・資源化の推進	固定物管理システム	—	12名	12名	12名	未達成	—
8 地域・市民の取組の推進	活動の推進(市民への啓発)	—	44店舗	44店舗	44店舗	未達成	—

その他事業

事業名	実施内容	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	達成	事業費(千円)
1 800+60+ヘルシーな暮らしの推進	実行回数	247,400回	1,240,000回	260,000回	224,000回	達成	1,364
2 二六減量推進員育成事業	実行回数	270,000回	170,000回	4,000回	0回	未達成	4
3 二六減量ステーション	二六減量ステーション	114回(参加者数: 3,077人)	市内44店舗(117名)	市内44店舗	市内44店舗(114回)	達成	1,412

①達成状況

生活実感・行動指標及び客観指標ごとに、H26 末目標値に対する H26 末現況値を比較し、達成状況を分類。以下のように分類ごとに配点を定め、点数化しています。

達成状況	説明
◎	現況値が目標値以上
○	「現況値とH23 末現況値の差」が「目標値とH23 末現況値の差」に対し60%以上(現況値は目標値未満)
△	「現況値とH23 末現況値の差」が「目標値とH23 末現況値の差」に対し60%未満(現況値はH23 末現況値以上)
×	現況値がH23 末現況値未満

②達成状況の分析、課題及び今後の取組みの方向性

達成状況についてその理由や背景を分析し、どのような課題があるのか、今後どのように取組みを行うかなどを記載しています。

指標を構成している事業について、第1次実施計画事業(H24~26年度)及びその他の事務事業(H24~26年度)の進捗状況を記載しています。